平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1276000112		
法人名	有限会社　桜ケアセンター		
事業所名	グループホーム　憩の家		
所在地	千葉県山武市本須賀３８４１－２		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

安全・安心を第一義的に生活を共に行なっていく、という信念で接している。
また慰問による踊りや演奏会、誕生日会や納涼際などイベントも毎月何かが催され、楽しく過ごされるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人代表は「利用者とともに生きていく」との理念を大切にしており、利用者本位の暮らしを率先して支えている。家族は頻繁にホームを訪問し、運営推進会議にも参加している。また、管理者はホームでの日々の暮らしを写真に撮り、毎月家族に送付して喜ばれている。なお、家族アンケートでもホームへの満足度が高いことがうかがえた。地域の祭りでは職員と利用者が一緒に参加し歌を歌ったり、管理者がバンド演奏を行うなど、ホームの存在をアピールいる。また、毎日の食事やおやつは職員の手作りを基本とした家庭的なホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様一人一人が尊厳を持って生きている、と言う立場（理念）に立ちケア実践を心掛けている。	理念は法人代表が業務ミーティングで職員に伝えたり、カンファレンスでも理念に沿った利用者目線の話し合いをしている。ホームの玄関や事務室、キッチンに理念を掲げ、絶えず意識できるようしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいたって無いが、お祭りの参加（利用者様の作品展示）など地域との交流に力を入れている。	自治会に加入し、ゴミ拾いや地域の祭りなどに参加している。ホームで行うデイサービスと合同の納涼祭には地域のボランティアが来訪し、フラダンスなどを披露している。また、近所の住民が花を持ってくるなど、自然な付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭の地域の方の参加など、音楽・食事を一緒に楽しみながら理解を深めていく努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長の参加、家族、自治体職員の参加で話が弾んでいる。要望や意見を受け止めサービス向上に生かしている。	運営推進会議は家族、市の担当者、区長などの参加で2か月に1回開催され、意見交換を行っている。遠方の家族が出席する際には送迎を行っている。現在、民生委員や近隣の人に会議への参加を呼びかけている。	地域からの参加を得て、よりサービスの向上に向けて、意見交換されることが期待される。また、未参加の家族へ議事録を送るなど、家族に運営推進会議が浸透するような工夫もあると良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から自治体担当職員と連絡をとり利用者様の生活向上と、施設運営に生かしている。	市内のグループホーム連絡会で行政と意見交換をしている。また、市の担当職員は運営推進会議に毎回参加しており、協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為は概ね理解している取り組んでいる。研修等の参加でより一層厳しく理解を深めていく。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、不適切な言葉については管理者がその都度注意している。帰宅願望の強い人には一緒に外に行くなどしており、管理者は外部の研修で学んだことを業務ミーティングで全員に伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても概ね理解して取り組んでいる。学習等の参加により一層ふかく理解していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自治体による研修もあり、積極的に参加し学ぶ機会を増やしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には充分な説明はもとより、疑問や不安等の疑問点についても充分意見を聞き入れた対応をして行く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見の反映としては運営会議において主に出されるが、いつでも意見を受け入れる体制を整備したい。	家族の訪問も頻繁であり、意向を聴く機会がある。また、運営推進会議でも家族の意見などを聴いている。また、外部評価の家族アンケート結果も参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングや毎朝の申し送り会議においても意見は出され、運営に反映させている。良いものはすぐ改善させるといった気風はある。	業務ミーティングや毎日の申し送り時に意見を聞く機会がある。また、職員間では連絡ノートを活用して情報共有し、必要な意見は検討し運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努めているが、人員確保等もあり充分な対応を取りきれていない。向上心を持って働けるよう整備に努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際に実務者研修の参加や喀痰吸引の研修等に参加している。今後も大いに力量アップに向け対応して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月一回、連絡会がありここに参加し情報の共有化に努めている。隔月には勉強会を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティング等で、利用者様のアセスメントが確認され情報の共有が図られる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には充分にお話を聞き、要望に沿った対応をしていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話しを聞く中で、最善の道を選べるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ケアする・される」関係ではなく、安心安全の生活を共にしていくという立場に立っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やミーティングにおける家族の参加などには充分話が出来る環境を作って差し上げる事など、絆を深める努力をしている。毎月、生活風景の写真を3枚家族に送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなかその様な場面に遭遇しないが、大切にしてきた関係を発展させる立場で努力していく。	利用者の希望を尊重し、墓参りや理容室に行くことがある。入居前に住んでいた家を見たいと希望する利用者がいれば、一緒に見に出かけるなど、馴染みの人や場とのつながりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の違いはあるが、席替えやまたは共通の遊び等で係わり合い・支えあう関係を築いていく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、その理由に関係なく相談や支援の受け入れは大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は大事にしている。要求に沿うよう努力をしている。困難な事例は今の所発生していない。	思いや意向を言葉で伝えられる利用者は少ない中、生活歴や普段の表情を見ながら、思いの把握に努めている。また、利用者の話は積極的に傾聴し、思いの把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの共有、地域の方々や民生委員の情報などからご利用者様のヒストリィを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心・安全の生活は見守りが基本だと言うモットーで、利用者の一日の生活を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議で出された意見・要望、および職員ミーティングでのカンファで出された意見を優先して、介護計画の見直しおよびモニタリングを行なっている。	定期的なモニタリングを行っている。また、カンファレンスは毎月の職員ミーティングの中で実施し、職員間で意見交換がされている。また、利用者の意向や家族の意見も介護計画に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申送りの中で、気づいた点を報告し合って個々の対応を共有している。全員にいきわたるよう申送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者様の立場に立ってケアを行なっている。さまざまな要望に対しては、要望に沿ったケア心掛けている。柔軟な支援は等施設の特徴の一つである。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんたちの歌や踊りなどを積極的に受け入れ生活を楽しみ、訪問歯科や主治医との連携もあり、安心・安全の生活を送ることが出来るよう力を注いでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医による往診および訪問歯科の往診、地域薬剤師の訪問など適切な医療受診体制がとられている。また医療機関への緊急・通常の送迎体制もとられている。	受診は本人及び家族の希望を尊重して行っており、家族の協力を得ながら在宅時からの主治医を継続する利用者もいる。職員が診察に同行して日ごろの様子を医師に伝えたり、また家族が同行する場合は、必ず受診結果を聞き、情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診体制をとっていただいているおおあみ在宅診療所および敷地内にあるディサービス勤務の看護師に相談に乗っていただくなど、適切な助言を頂き、ケアを行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必ず家族と一緒に医療機関側の話を聞き、またサマリーをいただき受け入れカンファを行なってケアの注意点などを検討している。いる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、ご家族との話を行いできるだけ受け入れる方向で進めている。医療連携は欠かせないので、連絡を密に方針を共有してケアを行なっていく。	終末期ケアについては、指針もあり、入所時に説明し同意を得ている。以前、看護師が在席していた時は看取りの実績があるが、現在は看護師が不在で、看取りを行えるよう体制を再度整えているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置については研修の場で個々に研鑽する機会を提供しているが、今年度はAED利用による救急救命の研修を消防隊にお願いしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の連絡網および利用者様の非難について管理会議での検討、事業所での防災マニュアルの検討を行なっている。	年2回消防署立ち合いで、火災を想定し避難訓練を実施している。訓練の結果は参加できない職員にも資料を回覧して報告をしている。また、東日本大震災で津波被害にあったことから、今年度は、職員の意見も取り入れながら、震災マニュアルを完成させた。	震災マニュアルを活かした、震災を想定した訓練が望まれる。災害図上訓練(DIG)や、時系列イメージトレーニングなど、その時々で、できる準備を職員で探してみるなどの方法を試みるのも有効と思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア基本と言う事で理念にも掲げている、個々の利用者様の尊重、プライバシーの確保に努めている。言葉掛けは常に心がけ日常の対応として努力している。	「人としての尊厳を重んじる」という理念の下、利用者を尊重したケアを心がけている。新規採用職員には、この法人理念を説明し、一人一人の尊重とプライバシー確保について理解を促している。日々のケアの中で、気になる対応があった場合には、法人代表、および管理者がその都度注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を表すのはケアするものの喜びと捉えています。そのためにさまざまなイベントを通して要求をくみ上げ、また相談に乗って行きたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは利用者様の行動をもって支援する体制をとっている。これからも一人一人のペースを大事に支援して行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに関心のある利用者様も多く、スタッフもその人らしい身だしなみに配慮して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はスタッフが行なっていて、毎日の手料理に一人一人が楽しみながら食事を摂っている。後片付けも積極的に手伝っていただける方もいて、食後も賑わいの場になっている。	利用者の意向を聞きながら、野菜、肉、魚などがバランスよく、彩りよく提供されている。また職員の手作りを基本としている。利用者もできる事があれば参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分摂取量や、食事・おやつのメニューを記録している。個々に応じた、対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行なっている。歯科医の訪問診療時に相談に乗っていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを観察し、トイレ誘導を行なっている。夜間は自力でトイレにいけない利用者に対して定時にトイレ誘導を行なっている。排泄の自力支援に努めている。	トイレでの排泄を大切に考えており、排泄パターンに基き声かけをしている。日中夜間を問わずトイレでの排泄を促して、自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便にはとくに気を使っている。記録表や本人の観察を行い、便秘に対しては飲み物の対応や医師と相談の上、下剤の処方を行なっていただいてる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期入浴日を週に4日と決めているが、入浴日以外の要望に対しては臨機応変に対応している。ゆず湯など楽しめる入浴に努力している。	一週間に2回は入浴できるようにしている。回数などの変更要望があれば、その都度対応をしている。浴槽に入ると灯篭のある庭が見え、ゆず湯、しょうぶ湯など入浴を楽しめるような環境作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて休むのは自由で、一人一人が好きな時間に休息をとっている。証明や温度等にも配慮をして気持ちよく睡眠が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が個々の利用者様の服薬の準備・管理をしている。症状の変化に対しては全スタッフで目を向けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技・嗜好品・楽しみごとを活かす努力を行なっている。嗜好品について一日2回のおやつ等に反映させている。ゲーム等で楽しむなど張り合いや喜びのある生活が出来るように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を優先させて外出支援を行なっている。散歩は、体調等をみながら行なっている。家族との外出も楽しまれている。	近くの海まで散歩するなど、日常的に外出している。歩くことが難しい場合でもホームの周りを一周したり、外気浴をするなど、ホームの外に出られるよう支援している。また、花見や祭りなど季節の行事にも出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を持っていたり、預けている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様によっては電話をして欲しいと言う要求はありますが、手紙のやり取りはありません。電話をして欲しいという要求には其の都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは食事やイベントの会場になるなど広く、廊下にはイベントの写真を張るなど居心地の良い施設作りを心掛けています。太陽が昇るとこには窓があり、日の出を楽しんでます。消臭には環境に配慮したものを利用してます。	共用空間は窓が大きくて明るい。加湿器の設置や木酢液で消臭するなど住環境にも配慮して、居心地のよい空間をつくるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ利用者様の居場所は決まっていてそれぞれくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライバシー空間としての配慮をしている。使い慣れた家具などを持込み居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	使い慣れた家具を持ちこみ、家族の写真や利用者自身の作品を飾るなど、それぞれが居心地よく過ごせるような居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安心・安全の生活が出来るように整えている。各所に手すりもあり身体機能を活かすという意味でも整備されている。廊下往復の室内散歩は利用者様の楽しみの一つでもある。		